極楽寺だより

2020（令和２）年８月号

発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）〒759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬3633 ☎0837-43-0625

「盆法会」「平和の鐘を撞きましょう」中止のお知らせ

一旦落ち着いたように見えた新型コロナウィルスの感染は、再び拡大の様子を見せています。

特に、お盆は人の移動も多く、今回も法座を中止せざるをえない状況です。本当に残念ですが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

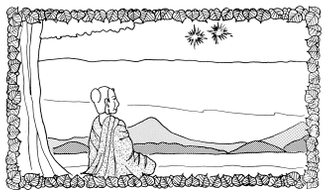
また、例年十五日に行っておりました「平和の鐘を撞きましょう」も中止といたします。

お盆期間中、本堂はお荘厳し、開けておきます。
どうぞ、ご自由に参拝してください。

参拝者無しで、お勤めします。
各家々のお仏壇にお参りを。
八月十五日朝九時より

なお、「盆法会」「全戦争犠牲者追悼法要」「魚供養」のお勤めを、住職・前住職だけで八月十五日朝九時より行います。申し訳ありませんが、参拝はご遠慮ください。

同じ時刻に、各家々のお仏壇にお参りしていただければと思います。



極楽寺掲示伝道
けいじでんどう

8月の言葉

今月の言葉は、二〇一八年九月に癌で亡くなられた女優・樹木希林さんの言葉です。樹木さんといえば日本アカデミー賞・最優秀主演女優賞を二度も受賞された名女優ですが、私の世代には、やはりドラマ『寺内貫太郎一家』（一九七四年TBS系列）のお婆さん役のイメージ。「ジュリーイイイ!!と叫ぶシーンは今でも鮮明に覚えています。当時の樹木さんはまだ三十一歳。息子役の小林亜星さんよりも年下でした（その他、郷ひろみさんとのデュエット『おばけのロック』『林檎殺人事件』や、フジカラーのCMも印象深いですね）。

若い頃から老け役の多い人ですが、年を重ねるほどに魅力が増していかれた方でもありました。

「年をとるっていうのは絶対におもしろい現象がいっぱいあるのよ。だから、若い時には当たり前にできていたものが、できなくなること、ひとつずつをおもしろがってほしいのよ」

（『別所哲也のスマートトーク』毎日新聞二〇一四年十月三十一日）

という言葉のままに、見事に老いを受け入れていかれたのでしょう。

アメリカの詩人ウォルト・ホイットマンの詩に

「女あり　二人ゆく　若きはうるわし
老いたるは　なおうるわし」（『草の葉』）

という一節がありますが、まさに「老いたるは　なおうるわし」を示してくださった方だと思います。

樹木さんは、二〇一三年の日本アカデミー賞授賞式のスピーチで、全身が癌に侵されていると公表されました。その後も相変わらずの飄々としたお姿に誰もが驚かされましたが、それは二〇〇五年に行った乳癌の摘出手術以来、「死」と向き合ってこられた日々があったからではないか…、などと私は勝手に思いを巡らしています。

二〇〇九年のインタビューで樹木さんは、

「がんはありがたい病気よ。周囲の相手が自分と真剣に向き合ってくれますから。ひょっとしたら、この人は来年はいないかもしれないと思ったら、その人との時間は大事でしょう。そういう意味で、がんは面白いんですよね」

（『ゆうゆうLife』産経新聞二〇〇九年二月二〇日）

と言われています。じっくりと「死」と向き合われてきたからこそ、ひと時の掛け替えのなさが、ひとつの出遇いの尊さが感じられてくる。そんな姿に、「死」に向き合うことの大切さを教えられます。

二〇一九年に亡くなられた女優・市原悦子さんは

「死を受け入れるということは、死ぬまできちんと生きるってことなのね」

と言われたそうです。やはり俳優さんは、他人の「生」や「死」を演じることがお仕事なだけに、「死」を、そして「生きる」ということを深く考えておられるのでしょうか。

私たちは、日頃「死」というものを考えず、遠ざけています。そのことで、かえって「生きる」ということもぼんやりとしているのかもしれません。

室町時代に現在の本願寺教団の礎を築かれた、本願寺中興の祖・↘

家政婦は見た！

蓮如上人は、「後生の一大事」（『御文章』五帖目第十六通『白骨章』）ということを言われています。

「後生」とは後に来るべき生涯のこと。死んだ後のこと。今生・現世に対して言われる言葉です。「一大事」とは最も重要なことを意味します。これを「死後が一番大事」と理解してしまうと、「生きる」ことがぼやけてしまいます。

真宗大谷派の僧侶・宮城顗先生は、

「後生の一大事」という言葉が、どうも日常の私の生きていく上での問題というようには、なかなか思えなかったわけですが、よくよく考えてみると、「後生の一大事」を問うという形において、初めて私は自分の人生の全体を振り返る眼が与えられ、そして、自分の人生を問い直す、そういう心が呼び覚まされてきたのです。／私たちが「後生の一大事」を尋ねるということは、老・病・死という事実を受け止め、しかもなお、確かな歩みを歩み切っていける、そういう道を尋ねるということであったわけでしょう」（『後生の一大事』宮城顗）

と言われています。私はどこに向かって生きているのか、どこへ帰っていくのかという「人生の方向」や「よりどころ」を問う↖

蓮如上人

ことが、生きる態度を改めて問い直し、確かなものにするのだと。それは、「死んだら終わり」と考える人生とは、まったく違うものになるはずです。

樹木さんは、このようなことも言われていました。

「先に死ぬ人が「自分は死ぬからあとはどうでもいい」っていうのは違うと思うの。これだけ地球が壊れている中で、人間が生きていかないとならない。それは混沌としたものになるけれども、でも混沌としたなかから新たなもの芽生えることを期待するしかないですよ。「明日、地球が滅ぶとも、きょうりんごの木を植えよう」ということばがあるの。そこに期待していかないと。」

（『別所哲也のスマートトーク』毎日新聞二〇一四年十月三十一日）

「明日、地球が滅ぶとも…」とは、マルティン・ルターの言葉だと伝えられています。この言葉自体も、そしてこの言葉に共感し生きようとする態度も、なんと豊かなのでしょうか！

また、入院中の九月一日に、窓の外を眺めながら「死なないで。どうか生きて、命がもったいない」と、繰り返し呟いておられたそうです。娘の也哉子さんが不思議そうに尋ねると、

「二学期が始まるこの日に、いじめや引きこもりで暗闇から抜け出せない子どもたちが、いっぱい自殺している。この国では、九月一日は子どもがいっぱい死ぬ日なのよ」

と。この言葉を受けて也哉子さんは

「死が目前になった自分と、未来ある子どもたちが自死するという対比にもどかしさを感じたんでしょうね」

と言われています。（『週刊朝日』二〇一九年九月二十日号）

自分の「死」と向き合う中で、他者を想い、未来を想う。これこそまさに、「死ぬまできちんと生き」ようとする姿だと言えるでしょう。樹木さんの死生観・宗教観について、私はよくわかりませんが、やはり樹木さんなりの「後生の一大事」の解決があったからこそ、このような言葉や生き方が生まれてきたのだと思います。

死を「いつか来るものではなく、いつでも来るもの」として受け入れ、人生の方向とよりどころである「後生」を確認する。それは現在の生き方を問い直し、確かなものにしていく作業なのです。この、人生における「一大事」を解決することが、「死ぬまできちんと生き」ることにつながるのだと教えられるのです。■

後片付けする人が一番尊い

極楽寺掲示伝道

7月の言葉

ある中学校の先生から、とても興味深い話を聞きました。荒れた学校を立て直すには、まず何から手をつければ良いのか。その先生によれば、それは「靴を揃えることを徹底する」のだそうです。そんなことで、学校が良くなるのかと思いきや、これがとても効果的なのだとか。どうしてなのでしょう。

高校野球の強豪校では、「ゴミ拾い」を日課に取り入れる監督が多いようです。中でも有名なのが、沖縄・興南高校の我喜屋優監督。ゴミ拾いや生活習慣を改めることで、就任三ヵ月後に二十四年ぶりの甲子園出場を果たし、二〇一〇年には春夏連覇を成し遂げました。

また、「凡事徹底」（何でもないような当たり前のことを徹底的に行うこと）をスローガンに、二〇一三年夏の甲子園で初出場初優勝を果たした群馬・前橋育英高校の荒井直樹監督も、名将と呼ばれる東京・日大三高の小倉全由監督、広島・広陵高校の↘

中井哲之監督も、「ゴミ拾い」を重要視しています。

「ゴミを拾って、野球が上手くなるのか」と思ってしまいそうですが、日大三高の小倉監督は、

「ごみ拾いは野球の上達にもつながるんです。ごみを拾うということは、あちこち周りをよく見ることです。そして、ごみは小さいから、小さなことに気づけるようになる。いまグラウンドで起きている状況、細かなプレーまで見る目が鍛えられ、試合でのミスが減るからです」『お前ならできる』小倉全由）

と言われていますし、興南高校の我喜屋監督は、

「五感を活性化させることで、小さいことに気づき、大きな成果が出せる。普段から小さいことができないと、サインを見落としカバーリングを怠る」

「散歩でたばこの吸い殻を見て見ないふりをする人は、「おれは関係ねえ」とカバーリングに回らない。」

「朝食のみそ汁やゴーヤーのおいしさを感じ、作ってくれた人に感謝の気持ちをもって残さない。そういう小さなことを感じられる男は、大きな仕事ができる」（二〇一〇年八月二十六日　朝日新聞）

と言われます。

「ゴミを拾う」ことで、小さなことへ↙

の気づきが生まれ、それが野球への向き合い方につながる。五感が活性化されることで、自分を支えてくれる人たちの存在が見えてきて、一つひとつのプレーを感謝しながら大切にできるようになる。なるほどと、うなずかされます。

ならば、「靴を揃える」ことで荒れた学校が立ち直るのも、同様なのでしょう。生徒の荒れた心が、靴を揃えることで少しずつ整い、落ち着いていく。そこから、小さな気づきが生まれ、成長にもつながるのではないでしょうか。

お釈迦様の弟子に、周利槃特という方がおられました。愚かで、自分の名前も書けないほど記憶力も悪い彼に、お釈迦様は一本の箒を渡して「塵を払わん、垢を除かん」と唱えながら掃除をするように教えます。ひたすら掃除に明け暮れる中で、「落とすべきは、心の汚れだ」と彼は気づき、遂には阿羅漢の悟りを得たと言われます。まさに、「ゴミ拾い」や「靴を揃える」ことに通じるお話です（ちなみに周利槃特は、『天才バカボン』のレレレのおじさんのモデルとも、言われています）。

掃除をし、身を整えることは、五感を敏感にし、感覚の精度を上げるのでしょう。それは野球や日常生活にも、そして信仰生活においても重要なことなのです。信仰とは、眼に見えない、耳↘

には聞こえないけれども、そこに確かなメッセージやはたらきを感じることで成り立ちます。劣化した感覚に気づくこともなく、見えるもの、聞こえるものしか受け止められない人には、心豊かな世界と出遇うことはできません。

そう考えると、現代社会は「散らかしっぱなし」の時代であるような気がします。「いや、昔と比べて、ポイ捨ては少なくなったし、ゴミの分別回収も徹底している」と言われる方もあるでしょうが、そんな意味ではありません。

近頃は、「面白いことをしよう！」という人が増えました。しかし私は、「面白いこと」だけをモチベーションにしている人を、あまり信用できないのです。なぜならそんな人は、飽きてしまうと次の「面白いこと」に興味が移り、躊躇いもなく立ち去る人が多いので。そうして残された人たちが後片付けをする場面を、私は沢山見てきました。

学校や行政を批判する人がいます。そこに問題があるのなら、提起することはとても大切です。しかし、ヒステリックにわめきたて、悪者を作り、メディアを巻き込んで大問題にしても、本↖

当の解決にはなりません。

モチロン周りが頑なに聞く耳を持たない場合には、それも有効な手段なのかもしれませんが、一番大切なのは次の段階であるはず。問題の解決は、クールダウンし、丁寧に、落としどころを探しながら、コツコツ取り組むしかないのです。ヒートアップし、悪者を切り捨て、自分はスッキリしても、後に残るのはズタズタになった人間関係だけ。その後片付けは誰がするのでしょうか。

政治家もマスコミも、「やりっ放し」「言いっ放し」「報道しっ放し」がほとんどです。散らかすだけ散らかして、真摯に後片付けのことまで考えているようには、とても思えません。

やはり、一番尊いのは後片付けをする人なのです。目立たないところで黙々と取り組む人たちによって、社会は支えられているのです。にもかかわらず、そんな人たちへの敬いを見失ってはいないでしょうか。感覚が劣化し、心が荒れてはいないでしょうか。

この文章を書きながら、散らかった机の上を眺め、少しでも後片付けをしようと思うようになりました。小さなゴミを拾う中で、改めて、自分がどれだけ散らかしっ放しで生きてきたかを知らされるのでしょう。

とはいっても、仏教は偏りや捉われ↘

を警戒します。掃除や後片付けに熱心になるあまり、潔癖になるのは行き過ぎです。目配りや気配りは、思いやりに繋がりますが、「汚いものが許せない」という思いは排他的になり、大らかさを失ってしまいます。それもまた、心が荒れているということなのでしょうから。■

極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。

近頃は、いろんな情報を気軽に手に入れることができる時代です。ところが、あふれた情報にふり回されてもいます。特に、不安をあおる宗教情報は危険です。また、仏事に関することについても、都会では気軽に相談するところがありません。お寺を身近に感じ、気軽に相談してもらうためにも、「極楽寺だより」がお役に立つのでは…と思っています。どうぞ遠慮なくお申し出ください。

鑽仰会法会中止のお知らせ

毎年九月に開催されます三隅親鸞聖人鑽仰会法会は、新型コロナウィルスの影響を鑑み、中止となりました。ご報告させていただきます。

お寺からのお願い

お盆には、たくさんの方が納骨堂にお参りされます。参拝はご自由にされて結構ですが、くれぐれも火の後始末をお願いします。特に、続けてお参りされる場合、ロウソクの火を「次の人のために」と消さないままにされるところに、落とし穴が！結局つけっ放しで危険なことに。次の方に「ロウソクの火を消して下さいね」と、一言かけてあげていただけると、助かります。

シロアリ駆除・防除作業を行いました

本堂の床下に、シロアリがついていることがわかりました。幸い、深刻な状況ではありませんでしたが、業者さんにお願いして駆除作業を行いました。昨年の雨どい工事・獣害対策工事と出費が続きますが、今回は、室生の岩佐均さんからいただいた特別懇志を、費用に充てさせていただきました。岩佐さん、本当に有難うございました。

住職のつぶやき

❑今回の法座も、残念ながら中止となりました。いつになれば法座が開かれる状況になるのでしょうか…。❑プロ野球は何とか開幕しましたが、広島カープはピッチャーが軒並み不調で勝てません。こちらもまた憂鬱な日々を過ごしています。❑ところで、現在放送されているＮＨＫの朝ドラ『エール』を観ておられますでしょうか。主人公･古山裕一（演じるのは、窪田正孝さん）のモデルは、昭和の音楽史を代表する作曲家･古関裕而さん。高校野球夏の甲子園大会のテーマソング『栄冠は君に輝く』や『高原列車は行く』、阪神タイガースの球団歌『六甲おろし』も古関さんの作曲です。❑しかし！それだけではありません。何と、御正忌報恩講で歌う『しんらんさま』も古関さんの作曲なのです！「南無阿弥陀仏称えれば、しんらんさまはにこやかに私の手をとり歩まれる」という歌詞の、私も大好きな曲。浄土真宗寺院の報恩講では、大抵歌われるのではないでしょうか。❑来年の１月は、一体どんな状況になっているのでしょう。御正忌報恩講が無事勤められ、みなさんと一緒に「しんらんさま」を歌いたい…と切に思う今日この頃です。（住職）